



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成25年07月01日 第620号「週刊五十嵐レポート」

アジア進出戦略セミナーから

6月28日(金)、日経新聞朝刊社会欄に「新人弁護士見えぬ将来」という記事。弁護士人口は2012年3月時点で02年の1.7倍の3万2千人。11年に裁判所が受理した訴訟等の事件数は405万件と、01年より157万件減少。弁護士資格を持っても弁護士の仕事ができない。就職もしかり。正社員として就職できるのは半分。若い能力を使いきれない日本があります。

6月19日(水)、アジアビジネス探索者の増田辰弘氏を講師に招きました。

「アジアの企業が成長し、日本企業の経営モデルが古くなる。現在、アジアの企業と互して小回りが出来るの(日本企業)は、戦略的中堅企業や中小企業。1億3,000万人(日本)マーケットと内需の大きな日本はまだ国内にとどまっても何とかやっていける。そのため内向き志向が強まり、多くの企業が守りに入っている。

一方、足元の市場が小さいため、海外に活路を求める必要がある韓国や台湾の企業とは対照的。

しかし日本企業でも知らない所で成功している企業はある。フィリピン・マニラ郊外の工場団地にある日本のI工務店は、ニュージーランドから原木を輸入、加工し、フィリピンで1度家を組み立ててから解体して、日本へ輸出する。I工務店は、現地人1万人、日本人だけでも250人いる大工場ではある。しかし会社の看板もなく、現地の日本人会にも入らない。秘密である。それ以外でも日本の中小企業がたくさん活躍している」

台湾において1990年から2010年までも20年間、製造業の売上高ランキングで20位以内に常時入っている企業は数社のみ。どんどん新しい企業は生まれてくる。上位にランキングする企業の共通点は中国をはじめ海外に進出しているということ。

日本では、弁護士は余っているようですが、アジア企業と提携等の契約に関わる弁護士は足りません。「大黒柱に車輪をつける」

ちょっと
気になる出来事

最近の日経新聞を読んでいると、中国経済の変調の記事が多く書かれています。キーワードは「シャドーバンキング(影の銀行)」。

シャドーバンキングは、規制が厳しい銀行を介さない金融取引。企業が低い金利で直接貸し出す「委託融資」と貸出債権を小口化した「理財商品」を個人・法人が購入する方法。銀行は直接リスクをとらず、企業や個人がリスクをとる方法。

オーストラリア・ニュージーランド銀行調査では、中国の「影の銀行」の規模は15兆元～17兆元(200兆円前後)。

著名投資家によると、「2007年、8年のサブプライム問題に似ている」「80年代日本とバブル酷似」。(どのくらい不良債権化されているのが問題)

「アベノミックス」の腰を折るとしたら中国の「影の銀行」かもしれません。



一口メモ
成功の秘訣

能力はたえず成長する

一つのを二つにも三つにも拡大して利用することのできる
<資源>は、明らかに人的資源 人間の能力<知識>のみである。

われわれが利用できる資源のうちで、たえず成長と発展を期待できる唯一のものは、人間の能力のみである。

(「現代の経営」)

ドラッカー経営名言集より

- 週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 ● 月刊五十嵐レポートダイジェスト
- 町コンランチエスター経営戦略塾「会社成功塾」 毎週日曜日 午前10時～12時。
- 町コン・ランチエスター経営戦略セミナー 毎月東京開催

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

